

図書情報センターニュースレター

(旧 図書館ニュースレター)

(改訂版) 第 10 号

■ 特別展示コーナーのご紹介

1) 阪神・淡路大震災 30 年コーナー



1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災から 30 年が経ちました。大震災当時や復興に向けての人々の奮闘、また、それぞれの思いや教訓を振り返る機会になることを願い、当時を記録した資料等を展示していますので、棚向かいの「震災コーナー」「災害コーナー」と合わせて、ぜひご覧ください。防災に関する書籍も揃えています。

(図書情報センター長から一言 --- 私はスキー合宿からバスで早朝帰宅した直後、東灘にて被災しました。その瞬間の様子、神戸市保健局に務めていた友人の棺との対面、自らも被災しながら薬や生活物資を届けに来てくださった会社の先輩のことなど、今も臉に浮かびます)

2) 林原めぐみさんコーナー

2 月 2 日 (日) に本学ホールにて行われた阪神・淡路大震災 30 年シンポジウム「災害にいきる看護のチカラ」で、大震災や神戸への思い、看護職を目指す若者へのメッセージを語られた声優・歌手の林原めぐみさん特集を開催中です。林原めぐみさんは、看護師資格をお持ちで、大震災当時担当していたラジオ番組「林原めぐみのハートフルステーション」では、被災地神戸に特別の思いをもって、被災者やリスナーを励まし続けられました。声優として「らんま 1/2」らんま役、「新世紀エヴァンゲリオン」綾波レイ役など、また、エッセイストとしても多くのファンをお持ちです。ぜひ資料を手にとってごらんください。

(図書情報センター長から一言 --- 林原さんの Wikipedia のプロフィールを見て知ったのですが、私と同年代 (1 日違い) なんですね (それがどうした))



1) 2) の著作展示コーナーは視聴覚コーナーの入口や図書館内ゲート近辺で実施中です。

■ 図書の貸出し冊数の増加や期間の延長を継続いたします

昨年 10 月 1 日より、卒業生・修了生の図書貸出し冊数や期間を従来の 5 冊 2 週間から 10 冊 4 週間に、また、学部生に関しては 10 冊 2 週間から 10 冊 4 週間に増やしていましたが、好評につき、この措置を当面継続いたします。みなさまどうぞご利用ください。(図書館)

■ 研究演習発表会に参加して ～図書館が皆さんの研究のお手伝いをできるように～

毎年の4年生が取り組んでいる研究演習成果の冊子は図書館に所蔵しております。場所はカウンターの近くです。先輩の成果やまとめ方を参考にしようと、皆さんがちょこちょこ閲覧されているのをカウンターで見守っておりました。

さて昨年末、分野ごとに開催される研究演習発表会に、図書館司書も参加させていただきました。パワーポイント等の図表を見ながら説明していただくと、抄録だけではわからなかった皆さんの研究のユニークなところ、そして苦勞の跡までも伝わってきました。

図書館司書は看護師の資格は持っておりませんが、調べものや文献検索に関して何かお手伝いできたら良いなあ、と考えております。研究演習発表会では「こんなことに困った」という、とても具体的なお意見をいただくことができました。そこで気がついたのは、調べたいこと、知りたいことは人によって違うんだ、というシンプルな結論です。それならばいっそ、個別でご相談に乗る機会を設けたらよいのではないかと、そう考えました。試しに、4月から予約制の文献検索相談をスタートします。図書館ラーニングコモンズを使って、実際に医中誌の検索を試みたり、医学や看護に直接関係なくてもわからないことを調べてみたり、なんでもご相談ください。お申し込み方法は、学務システム掲示板に掲載予定です。（図書館 村上礼子）

■ 自動貸出機のスズメ

図書館に入って右側、カウンターの中央に自動貸出機があります（昨年10月より稼働）。開館中なら19時以降でも、いつでも、ご自分で貸出手続きができます。一度にたくさんの本を処理してくれますのでスピーディ。ぜひ体験してみてください。ただし、貸出冊数の上限を超えたり、返却が遅れて貸出禁止期間になっていたり、DVD等の資料のように貸出できないこともあります。返却の場合は、今まで通り図書館入口横のポストにお願いいたします。（図書館）

■ 2024年度秋に行った図書館利用者アンケートの結果について

2024年10月～11月にかけて行った図書館利用者アンケートの集計結果と寄せられたご意見について、教職員の方々には教授会報告資料として配布しておりますが、同じものを図書館内でも見ることができるようにする予定です。図書館の環境や機能、また、企画に関しては概ね満足いただいている結果でしたが、ご意見や提案等もいただいておりますので、それらについては改めて検討してまいります。

なお、希望の書籍の購入や参考資料の取り寄せ方法などにつきましては、カウンターに積極的にお寄せ下さい。特にご希望の書籍購入などにつきましては、随時受け付けていますので、是非、具体的な書名などをお知らせ下さい。必要な図書についての問合せを館員一同、歓迎いたしております。

■ 図書情報センターノート

いちかん図書館で自習

レポート作成や自習、テスト勉強のために図書館に来られる学生さんをよく見かけます。筆者も学生時代には資料がすぐ手に取れる図書館でレポートを書いていました。

★図書情報センターニュースレターは年2回刊行しています。本学HPの図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。

さて、今回は図書館の自習環境に関して学生さんに少しお話を聞いてみました。いちかん図書館には閲覧席、キャレル、ラーニングコモンズといった自習スペースがあります。それぞれの利点や用途について学生さんの声を紹介します。

閲覧席にはコンセントがあるので、自分のPCを持ち込んでレポートを作成する際に電源がとれるので便利という意見がありました。また、2階の閲覧席は専門書架や検索端末（OPAC）に近いのでレポート作成時に参考文献の検索や閲覧に便利との声がありました。

キャレルコーナーについて、テスト前などの集中したいときに利用するという声が多かったです。個室で集中できる環境がほしい方に人気のようです。またほかの場所に比べてリラックスして勉強できるという声もありました。

ラーニングコモンズに関しては声を出してもよい部屋になっているので、図書館で閲覧できるDVDを複数人の学生と見ながら勉強するときやグループワークの課題について話し合うときに利用する方が多いようです。また、国家試験の過去問集をまとめて置いているので、国試対策で利用する方もよく見かけます。

今回の聞き取りから、学生さんは用途や好みに応じてそれぞれの自習スペース利用されていることがわかりました。みなさんも、館内のお気に入りの場所を探しに図書館に足を運ばれてはいかがでしょうか。（図書館 久保 将人）

■ 教職員の推薦図書を紹介します。

2023 度からスタートした企画（特設展示コーナーあり）で、どれも図書館に置いている書籍です。今回は、2024 年度末で交代する図書情報センター長（二木 啓）からの推薦図書です。

1）画文集「歓喜」岡本太郎（作品・文）岡本敏子 編（二玄社）



岡本太郎（1911-1996）と聞くと、前回の大阪万博（1970 年）で制作した「太陽の塔」（このときの万博のテーマであった「人類の進歩と調和」という表層的言葉のしらじらしさに抵抗を感じて、ただベラボーなものを作ろうと決意したと言う）や、TV などでの強烈な面白キャラのイメージのみが先行して印象付けられている向きも多いかもしれないが、まずはこの画文集のどのページでも開いてみてほしい。父に漫画家・岡本一平、母に作家・岡本かの子をもち、多感な若き日にはフランスで様々な芸術家や思想家、活動家と交遊、その後もまさに全人間的な存在として挑みを続けた太郎の息吹が惜しげもなく全開となっている。瞬間の躍動とともに憂愁とユーモアを漂わせつつ挑みかけてくるような画やオブジェ、また独特の文体で語られる文章の、なんと本質的で詩的かつロジカルなことか。これらの言葉に「そうか、太郎も同じように感じていたのか」とも思うし、やりきれない思いで怒りや悲しみに沈む日には笑いや気力がこみあげてくる。みずず書房の「岡本太郎の本（全5巻）」と合わせて、ぜひ手にとってもらいたい。時間などとらわれず「瞬間に燃え上がれ！（1980 年代の太郎出演の CM）」

センター長の気まぐれ濫読日記抄

医学書院の「ケアをひらく」シリーズの「どもる体」などでも知られる伊藤亜紗「体はゆく」（文芸春秋、2022）。著者ならではの視点を交えつつ、体の仕組みのある種の「ユルさ」が作り出す介入・拡張可能性に着眼した最新の興味深い研究が、5名の研究者との対話を含めながら紹介されている。生命体の主体性の危うさも視野に入れつつ、エピローグでは「能力主義から「できる」を取り戻す」ことについて述べられる。齋藤幸平「人新世の資本論」（集英社新書、2020）。コロナ禍初期に刊行された話題作、著者の思いと力のこもった提言の書を改めて今、読み直す。おそらく多くの人々が心の片隅では違和感や疑問を持ちつつ、巻き込まれていくことをやむなき是としてきた諸事の根本に目を向け、新しい方向性を提起している。文章は柔軟かつ必要十分にロジカルであり、時にユーモアさえ感じさせる書きぶりで、熱く真摯な問いかけと主張を展開している。著者の考えを実現していくには、現状をときほぐす糸口から見えた突破口を繋いでいく必要があり、さらなる具体が求められるが、やはり個人がめいめいに決意をもって飄々と行動を起こしていくことが前提となる。私も、地球環境と人間はポイントオブノーリターンを過ぎてしまったのでは、とばかり言うておられない。同じ著者の「マルクス解体」（講談社、2023）は、より学術的に論じているが、こちらも読み込んでみたい。

二木 啓（図書情報センター長・専門基礎科学領域医科学分野教員）



今号の図書情報センターニュースレターは、センター長が出しゃばり過ぎたかもしれませんが、今号をもって交代となるので力んだのだと御笑覧いただければ幸いです。新年度からは、学内組織変更により図書館ニュースレターとして発行される予定です。今後も図書館や図書に関する話題やお知らせなどを記載しつつ、学習、研究の合間に楽しんでいただけるニュースレターを目指します。利用者からの寄稿もお待ちしております。2025年春



★図書情報センターニュースレターは年2回刊行しています。本学HPの図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。